

迎春



住職 成田大航



謹賀新年

筆頭総代 芦田正吾



新年明けましておめでとうございます。日頃より圓覚寺護持会に対しご理解ご協力ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

殊に昨年は、十年來の事業となりました「本堂大屋根改修事業」がようやく完成し文殊菩薩ご開帳も合わせた落慶法要を執り行うことが出来ました。これも檀家の皆様の暖かい御厚志・御厚情の賜と厚く御礼申し上げます。

ところで、日本では仏教が日常生活に溶け込んでおり、たとえば田舎の道ばたにはお地藏さんがおられて無意識に手を合わせる方を見かけます。しかしながら仏教は人生の最後に出会う宗教とも言われ、人が亡くなれば葬儀は仏式が一般的ですが、反面、キリスト教やイスラム教等のように毎日礼拝したり毎週教会等が集つたりして神を敬いその教えを学ぶことはほぼありません。

旧態依然としたやり方は通用しなくなってきたのは事実ですが、人々の「思い」は変わってはいないと感じます。十七年ぶりの秘仏文殊菩薩のご開帳でしたが、SNSで知った方が遠くは埼玉県から、京都市内、神戸、姫路など思いもかけず拝観に来られたのには驚きました。それは趣味を越えて、仏さまと自分のところが出会う何かを感じておられるのだということも同時に確信致しました。世情も不安定な時代ではありますが、しっかりと心所こそ生きる指針であると思います。



仏教的生き方も少しでも広まることを念じ、更には檀信徒皆様の益々のご健勝を念じて新年のご挨拶と致します。

本堂瓦屋根が波打つようになり、専門業者に調査を依頼したのが九年前の平成三十年五月でした。それから八年、筆頭総代伊東高志様を中心に総代様・護持会役員様のご苦勞と檀信徒の皆様との御協力の末に大屋根瓦葺替えと本堂の大改修が無事完了致しました。昨年十月の落慶式・十七年振りの秘仏文殊菩薩のご開帳並びに「山田雅人語りの世界」イベントには多数のご参加を頂き盛会裡に終えることが出来ました事、感謝の念に堪えません。

なお、今期は役員改選期に当たり、前期総代の伊東高志様、芦田幸雄様、芦田雅人様はご勇退され、芦田正吾様を筆頭総代として新しい役員様にてお世話になることとなりました。今まで当たり前のように先祖から伝わり、行ってきた伝統的な行事がつつぎと削られてゆく中、護持会組織の運営にも困難がありますが、宜しく願いを致します。

そのため日々の生活の中で、仏様を意識しその教えを実践しながら暮らす方は少ないと思います。その結果として、仏教という宗教的な面が希薄化してゆく中で、社会の変化に合わせて弔い方や供養の仕方が変わるのとは自然なこと、お彼岸などに家族でお墓参りをして、家の墓を守り継ぐ習慣は次第に変わってきています。

また、従来のご先祖からの墓地をお寺に返還して「墓終い」する方も増えており葬儀についても、コロナ禍を経て家族葬が普通となり費用を掛けない葬儀になっていきます。そのような時代の中で、今後五十年、百年先に向けてこの護持会をどのように維持していくか重大な局面を迎えていることを意識せずにはおれません。毎日のように悲惨な事件、事故が起きているこの時代に、護持会がお墓の守だけで終わるのではなく、仏様の教えが少しでも日常に生かされて心が豊かになればと祈念しています。

今後共、各檀家の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。最後にこの一年が皆様にとって幸せな年となりますことを祈念申し上げます。



総務 大島保正

新年あけましておめでとうございます。この度、円覚寺の総代（総務担当）になりました大島保正です。檀信徒の皆様、運営委員の皆様とともに協力しながら、住職、他の総代とともに寺院の発展に努めていきたいと思っております。何卒よろしくお願い申し上げます。寺院を取り巻く環境も変わりつつあり、課題もあるように感じています。寺院の発展、継続のため微力ではありますが運営委員の皆様と協力しながらご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。



会計 高橋芳友

新年明けましておめでとうございます。令和八年の新年を迎え、檀信徒の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。又、日頃より円覚寺護持会の運営に対しましてご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。さて、昨年は長年の懸案事項であり



墓地管理 木下知之

ました本堂大屋根大改修工事も無事八月に完成を迎え、皆様方から頂戴致しました志納金を予算とした工事金決算書の監査も滞りなく終了しました。この間三期九年半の長きにわたり予算管理に努められた会計担当総代がこれを機に退任される事となり、力不足では有りますが九月より後任としてお受けする事になりました。今後は引継いだ資料と円覚寺護持会事業について一層の理解を深め、その一役を担える様努力する所存で御座いますので、檀信徒様はもとよりご住職をはじめ各総代様や運営委員の皆様方には大変お世話になります。年頭に当たり皆様方のご健康とご多幸を心よりお祈り申しあげまして挨拶とさせていただきます。

総代として引き続き墓地を担当しています。墓地には二箇所ゴミステーションありますが、最近ごみの量が少なく大変助かっています。草木以外のごみはお持ち帰り頂きますようお願い致します。



特にご苦勞頂いた役員様による文殊菩薩御厨子のご開扉



17年振りのご開扉



秘佛文殊菩薩
縁起に依れば、此の文殊菩薩は丹後切戸（天橋立）の文殊菩薩と同じ仏師 即ち天竺の毘須羯磨の作と伝えられ、圓覚寺開創以前より安置せられておりました。慶長十三年（1606）圓覚寺開創の折、文殊は妙智慧の菩薩ゆえ山号を妙智山と名付け、衆生を圓覺の道に入らしめる為、寺号を圓覚寺としたこと。秘仏にして江戸時代には賑やかに御開扉が行われていたが、お堂の老朽化で閉扉し、平成20年開創四百年の記念事業で文殊堂改築の折復活し以後十七年毎に開扉されております。

秘仏文殊菩薩ご開帳

山田雅人語りの世界



文殊堂での法要



山田雅人さんによる「語りの世界」



お世話になった総代・運営委員各位



大いに盛り上げて頂きました

◎10月25日（土）法要日程

9時	受付開始
9時30分	本堂大屋根落慶法要
10時頃	参詣者焼香
10時頃	感謝状授与 (会場準備)
10時20分頃	文殊菩薩ご開扉法要
10時30分	休憩
11時	イベント参加者受付
12時	「山田雅人かたりの世界」 餅まき・閉会

圓覚寺護持会長謝辞

落慶法要式次第



屋上から由良川を望む



参詣者全員でのご焼香



本尊如意輪観音様にお拝



ご寄進各家のご先祖供養



代表総代焼香



引き続きご開扉法要



施工業者に感謝状授与

本堂大屋根落慶法要

落慶法要当日のユーチューブ動画



芦田為助三百五十回忌に寄せて

丹州孝子伝 芦田為助

福知山史談会 大槻 伸

この土師の地に、親孝行な子があつた。同地の芦田家には、福知山城主・松平忠房が与えた『丹州孝子傳 賛論附』の巻物が代々伝えられてきた。

孝子の名は芦田為助(ためすけ)。延宝五年(一六七七没)といった。家は貧しかったが、租税の滞納はなかった。父母に対しては決して口答えをせず、妻と共に身をもって父母に仕え、近所でも評判になるほどであった。

その内、城主・忠房の耳に達し、寛文八年(一六六八)、褒賞を頂戴するに至った。この孝行話が今に伝わったのは、幕府の御用儒者、林鶯峰(寛文二年(一六六二)、弘文学院学士。延宝八年(一六八〇没)に忠房が依頼し、孝子傳を漢文に作成したからである。

その後、数々の孝子伝に採り上げられ、全国的に知られるようになった。忠房の期せずして、江戸時代の儒教、忠孝の教えに乗り、明治以降にも孝子

為助の話は広まったのである。

ここに明治期に印刷された「丹波名孝子芦田為助青年時代」がある。傘を脇に抱え、書を読みながら歩いている。印象的なのは、足元だ。左足は草履で、右は下駄。とても歩きにくいし、変わる人だと思われるだろう。これには訳がある。

父は「今日は天氣が良いので草履を履いてゆけ」という。ところが母は「雲行きも怪しいので下駄を履いてゆくように」と勧める。若き為助は悩んだ末に、左足は草履、右足に下駄を履



現当家 芦田満様所蔵 「寛政三奇人の第一人高山彦九郎が孝子の中に稀に見る孝子として郷里上野の國より叢々墓参したと云ふ名孝子丹波名孝子芦田為助青年時代の図」

いて出掛けたという。孝子為助の有名な逸話である。ただし元の「丹州孝子傳」には載っていないお話なので、史実は後に付け足されたのであろう。今年、そんな為助の没後三五〇年。孝行のみならずその歴史の重みを振り返りたい。

私と写経

写経會員 以久井 正子

賀正 明けましておめでとうございます。

一年が早くあつという間に過ぎ去ります。今年も午年、若い人達には飛躍の年であります様、年輩者は穏やかにボックリボックリとくらしたいと願っております。コロナが発症してから世の中一段と変化し、風変わりしました。

機械を操る時代。店に行っても自分でしないといつまで経つても食べられ無い。会計も各自でして下さい。昭和初期生まれの私は、あの頃は良かったとしみじみ思いつつ悪戦苦闘しながら生活しております(笑) 私の圓覚寺様とのご縁は、写経会にお誘いを受け、もはや十年近くなり

ます。

お線香の香り漂う本堂の中、皆様と一緒に般若心経を唱え静けさの中での一時間。書き終えた字を見ると、太くなっていたり、かすれていたたり、線が曲がっていたり、写して書いているのにこの出来あり様、集中できて無い事がわかります。何年書いてても満点の書き上げはむずかしい：奥が深い写経。二百七十六字一時間かけて筆を運ぶ中、無二十一字不九字空七字、般若心経七回と多く出てきます。一字一字の教え意味を巡らせそれによつて思いが広がり各自院仏像四季折々の庭、ご詠歌、この歳になつて一層胸に染みわたります。

先日、圓覚寺様の本堂大屋根改修落慶法要に出席させて頂きました。大変な工事を完成されました事、ここ迄の心労お察ししますと

共に、立派に再建されました事心からお祝い申し上げます。この法要にも参加させて頂き、大勢の僧侶の方々の立ち振る舞い手足のしぐさに心洗われた気持ちで一部始終拝見し見入っております。

修行を積まれてこられた姿が今日身につき、又、写経を通じてお茶のひととき、花見、食事会時にはバス旅行にも参加させて頂き、毎回晴天の一日、皆様と共に楽しい会に感謝しております。

この一年も皆様まずは、健康で幸多く楽しい嬉しい事、出合いがあります事お祈り申し上げます。

仏教振興会研修旅行。淡路島・八淨寺にて。

筆者左から二番目



ご寄進

芦田卓治様

本堂前庭園の整備

砂利替えとして



芦田正勝様

祈禱太鼓の鼓面

張り替えとして

